

明善同窓会 関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部
会報委員会
事務局：千代田区麹町 3-1-1
（株）昭栄広報内
電話：03-3265-4071
http://www.jinryoku.com/



関東支部会長ご挨拶

関東支部会長 昭和44年卒 瀬戸 渡



皆様、こんにちは。今年も関東在住の同窓生が一堂に会する関東支部総会が、風薫る5月22日（日）に霞が関ビルで開催されます。今年の総会実行委員は、昭和63年卒のみなさんです。いよいよ実行委員も昭和最後の世代となり、来年からはいよいよ平成元年卒が実行委員就任ということになります。

さて、支部総会の歴史を振り返ってみますと、第一回は昭和54年（1979年）に初代会長川合寿人氏（T14卒）、講演者中村八大（S25卒）のピアノ演奏、200名参加とあります。第一回から第七回までは、隔年開催。第八回総会から毎年開催されるようになり、今年が支部創設から36年目、関東支部総会第30回の記念大会になります。

時代の節目に当たる総会ということになりますので、例年にも増してたくさんの方々のご参加を心よりお待ちしております。

また、この間母校後輩のために、設立から会の運営発展に当たり物心両面に亘りご尽力いただきました多くの先輩方に対し、敬意を表するとともに改めて深く感謝申し上げます。

ここで、関東支部平成28年度の主な年間行事目標をご紹介します。

1. 会員間の親睦活動・母校支援活動の活性化、同窓生の人的資源の共有

2. 年次代表による幹事会の定期開催と年次を超えた先輩後輩の交流の活性化

注・まだ定例幹事会に参加していない年次の方々には、趣意をご理解の上、代表・副代表お二人を選任していただき、支部活動のお手伝いをいただきますようよろしくお願い致します。

3. 学生の会の活性化
学生への物心両面からの支援、
関東地区の大学へ進学してきた新入生歓迎会

3. 4年生に対する就職支援の活動
4. 同窓会本部、東京福岡県人会、久留米市、市内高校

同窓会との連携の強化
5. 支部ゴルフコンペの開催、県人会、高卒礼会などのコンペへの参加

6. 支部総会をさらに集まりやすく楽しい会合にするために、企画や会費、会場の検討

最後になりますが、私たち役員・幹事も、ここに掲げております目標の実現と活性化に付いて引き続き頑張りたいと存じます。会員のみなさまのより一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

感謝

校長 高松亮輔



平成27年。それまでの明善教育活動の集大成として「Meizen Neo Program」が開始しました。その内容は「明善学」World-Wide Bridge「Personal Motivation」の三本の柱で構成され、学校全体で生徒の能動的学修姿勢を育成するものです。（平成29年度から本格実施）

「明善学」は、「郷土を知る・地域に貢献する」をテーマに郷土の歴史研究や地場産業と連携して、学問の基礎や課題研究の基礎を学ぶことを目的としています。また、価値観の確立、配慮の精神の涵養、等、人としての基礎を醸成します。「World-Wide Bridge」は「生徒の視野を世界に広げる・世界を見据えて思考する生徒を育成する」を目標にアメリカ研修・ペトナム短期交換留学等の海外研修を通して生徒の能動的学修意欲を刺激します。「Personal Motivation」は生徒が能動的に活動できる環境を充実させ、「学問研究」や「芸術・文化・体育」の領域でのより高度な主体的活動を促すもので、各種コンクールへの参加、AO入試・推薦入試への接続を支援します。

これからの明善の教育理念は「厳しさの中から生まれる創造性と主体性の育成」であり、これが「明善スタイル」であります。このプログラムは福岡県において高く評価され、本年1月6日に平成27年度福岡県とびうめ教育表彰において福岡県立学校優秀校として表彰されました。その教育プログラムによる生徒たちの活動と成果の一部は、既に本校公式Facebook等において公表され、多くの

ご挨拶

同窓会会長 昭和41年卒 眞木大樹



明善同窓会関東支部の皆様には、何かとご指導、ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

母校の校舎の新築工事も、あと2年で完了の予定で、急ピッチで工事が行われています。

同窓会報で既報の通り、明善百周年記念館（同窓会館）の工事につきまして、本年6月の代議員会に具体案を上程の予定で、準備を進めているところであります。代議員会の承認をいただきました際には、どうか皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、明善高等学校がSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業に文部科学省から指定を受け4年目、今年1月19日に『第4年次SSH成果発表会』が開催され、同窓会からも数名参加を致しました。4年次ともなると研究成果の発表も堂々として、社会で活躍するグローバルリーダーの育成という大きな目標に向かって着々と

科学者の卵が育っていると感じました。その一つに「筑後川に広がる黄色いじゅうたん」漱石の見た菜の花を取り戻せ！のタイトルで発表した生物班がありました。明治30年、夏目漱石は高良山に登り、『菜の花の遙かに黄なり筑後川』と詠んでいます。しかし、今日では菜の花とダイコンの花が混在する所や、ダイコンが分布域を拡大している原因を究明するため研究を行った班でした。

私がこの研究を紹介した理由に、漱石の親友に菅虎雄という人がいます。昭和27年卒で明善高校でも教鞭を取られた原武哲先生は菅虎雄の研究を続けられ、平成25年10月に梅林寺の外苑に「菅虎雄先生顕彰碑」を建てられました。明善同窓にも多くの協賛者がありました。

このたび、東京水天宮の改築に伴い、東京水天宮入口に建てていた菅虎雄書の「水天宮」の石碑を久留米に移転、再建いたしました。このような点から、漱石と菅虎雄の紹介をさせていただきます。

に加えられたボルダリング（スポーツクライミングの一種）で世界ユースの大会で優勝した生徒、オリンピック選手の後輩が出るかも？又、国際ナノテクノロジー学会高校生の部で優勝した生徒など、現役の生徒達の頑張っている話を校長先生から聞くだけで、胸がワクワクするような感動を覚えました。

第49回明善大同窓会のご案内

第49回実行委員長 昭和56年卒 早川 成

○日時 平成28年10月8日（土） 14時30分開会予定
○場所 ホテルマリアターレ創世久留米
○テーマ 「会えば戻れる17歳」



明善同窓会・関東支部の皆様、こんにちは。今年の大同窓会は、私共明善56会が担当いたします。どうぞよろしくお願いたします。

1月末に55会の先輩方との引き継ぎ式が終わり、いよいよ我々の番だと身が引き締まる思いで本格的な準備をスタートしたところです。これからすべきことが山積みで、苦勞話を聞けば聞くほどプレッシャーもかかりますが、結果をあれこれ心配するよりも準備のプロセスを一つひとつ楽しみながら、56会らしい大同窓会を創りあげ皆様をお迎えしたいと思っています。

さて、昨年10月、第48回大同窓会の終わりに、当番幹事委囑状伝達式の壇上で実行委員長のお話を聞き取らせていただいた際に、「明善の伝統とは、明善でよかった」との思いが繋がって築かれたものであると「思う」と、ご挨拶をされました。今回第49回の大同窓会はその思いを更に深めるべく、「会えば戻れる17歳」というテーマを掲げました。同じ時間を過ごした友人たちと懐かしい話を花を咲かせ、大いに語り合いながら、皆で「あの日の頃」に戻りましょう。年齢や時代の違いを超えてそれぞれの「時間」や「つながり」を味わいながら、「やっぱり明善でよかったバイ」という雰囲気がある会場いっぱいになるような大同窓会にしたいと思っています。1000人の明善同窓生が一年に一度の「出会い直し」をするときは本当に嬉しく楽しく元気が出ます。遠方からではありませんが、関東支部の皆様のお一人でも多くのご来場を心からお待ちしています。

楽天老人の独り言

昨年、法事で帰った時、空港からの高速バスの待ち時間が長かったので、地下鉄で天神に行き西鉄電車に乗った。にぎやかな中高生やおばさん達の博多弁や筑後弁(チツゴベン)を期待していたが、スマートフォンをいじっている人ばかりで、車内は全く静かである。懐かしい故郷の言葉が飛び交っていない。筑後川(チツゴガワ)の鉄橋を渡る音で、ようやく故郷・久留米に戻ってきたのを感じた。

昭和43年卒 山田孝文

以前、テレビゲームで外遊びがなくなったのを嘆いたが、今は大人までもがスマートフォンにくぎ付けで車内の会話もない。目や健康だけでなく文化の伝承が危ぶまれる。高良山や筑後川・高良川で暗くなるまで遊んだ身としては、アスファルトとコンクリートに覆われた東京での生活の方が長くなるにつれてどうしても、土や水のある生活に餓えてしまふ。

早期退職を決めて、一年間、東京近辺の「古民家」をあちこち探し回り、古民家というよりも古いだけの廃墟を長野に見つけた。それでも信州・佐久に行けば、晴耕雨読・半農半漁の生活やケープルカーやロープウェイで行ける山歩きや溪流釣りを続けることができる。佐久の農業は今年に限ってはまったく実らなかったというか収穫できなかった。昨年はテグスや紙袋で守っていた作物が、翌月に収穫を楽しみに佐久へ向かうと、桃の実も、トウモロコシもブドウもすっかり無くなっていく。7年目にして、カラスやハクビシンなどの獣たちによる農作物被害は、彼らに私の農作業が認められてきた証拠なのだろう。今年一番の収穫は38cmのイワナであるかもしれない。8年前から職業欄には無職と書いていたが、来年あたり画家とでも書くのかと思っている。一冊も売れない作家や絵が売れない画家がいても面白い。

亜米利加には、95兆円の95%を社会貢献活動に投じる人や5兆円の寄付を申し出た若者がいるそう。日本の首相も政治家も税金を使って国際貢献などと言わず、個人資産で行い、老人の年金から、所得税のほか国民



1991年 25年前の関東明善43会

健康保険だ、やれ介護保険などと手を替え品を替え、むしり取らないでほしいものである。先日、水木しげる氏の訃報があり、そして野坂昭如氏の訃報があった。一つまた一つと昭和の灯が消えていく。戦争被害者の死と共に、国内に戦争やテロが近づく足音を聞く。無収入の身として、唯ただ願うはお金が尽きる前に、命が尽きてほしいということだ。仕事に命を捧げるのもよし。元氣なうちに自由になり、気ままに生きるのもよし。かな・・・。

青木繁『海の幸』探訪

毎年恒例の69会忘年旅行は暖かい千葉、富浦となり、今年度の幹事として、何処へご案内すべきか思案するうちに、以前から訪れたいと思っていた青木繁の『海の幸』が描かれた衣良海岸に思い当たりました。同期の瀬戸君から、青木繁が滞在した小谷家御当主は「つつじ会」の会員と聞きお手配をお願いして、保存会の方達が案内をして下さることになりました。



69会 昭和44年卒 菅原裕子

12月5日旅行参加者の内18名が集まり、事務局長の池田さんご用意の資料と詳しい説明を伺いながら、駆けつけて下さった御当主と共に衣良崎神社、小谷家住宅、記念碑と巡りました。御当主のご両親様は一般公開のために隣りの家に移られ、地元の方達は修復、保存のために様々な努力をなさっていることを知り、久留米から遠く離れたこの地でこんなにも熱心に活動をされ、青木繁が大切にされていることにとっても感銘を受けました。

ていたことがあり、祖母は姑から「お酒を飲みなさんと描きなさんもんう」とよく聞いていたそうです。少し似たようなご縁がありながらも私は今まで何もしておりませんことに、保存会の皆様の前で深く恥じ入った次第です。

昭和45年卒 鶴田雄彦

「2015年12月4日、「福徳神社」に集合！日本橋三越前の「コレド室町」に熟男熟女19人が揃った。この神社の宮司さんは、明善同窓会会長で水天宮の眞木大樹宮司の従弟さんだそう。福がイッパイ！の願いを込めて、お賽銭をはずんだ。



この辺りは、関東明善会の代表幹事でもある我が同級の山口くんのドメイン。「アド街ック天国」で放映された人気店で、ソーセージ、メンチかつ、サイコロステーキ、そしてメのカッサンドと肉づくしを完食。還暦からどんどん遠ざかるのにみんな元氣なのは、肉食系のせい。さて、宴も終わりを迎え、幹事を務めた山口くんに、参加者からねぎらいグッズの贈呈。徳はオッパイ！がコンセプトの究極の癒しを、さっそく実感する山口



くんだった。画面右下は、笑い崩れる熟女子。

人生に、福あれ、徳あれ！だけど、欲だけで生きてはならぬえ。人生に、明あれ、善あれ！と願い、再会を誓い合った。

同期会開催26年目

昭和46年卒 江端智恵

我々46年卒は卒業して今年で45年目に突入63歳(64歳)。現役組とリタイア組混合チームです。現在73名のメンバーが関東に在住です。1990年春に第一回支部同期会を開催し早26年目。一度参加できないと二年みんなに会えないという寂しさから半年に一回開催しようということになり2002年からは春に宴会、秋には一泊旅行に出掛けています。

春は宴会のみだったのが、2006年からは「大人の見学会」と銘打って、府中競馬場VIPルームからの観戦に始まり、末広亭、国会、ヤマト運輸クロノゲート等々の見学で興奮したり感心したり時間を過ごしました。昨年は神田川クルーズです。その後毎回宴会会場へと繰り出し盛り上がった後名残惜しくも解散となります。

秋の旅行では日光、軽井沢、銚子、伊豆他の温泉地等親睦を深めています。福島へ行った際は、郡山安積地区に明治時代の開拓事業で旧久留米藩が入植したという資料館も休館日にも関わらず区長のご厚意で見学させていただき、水天宮にも参拝してきました。昨年は久能山東照宮と絶景を行く大井川トロッコ列車の旅でした。

同じ時代を過ごし、同じ学び舎で学んだ時間があつたからこそ気負うこともなく語り合い笑い、ホッとできる時間を共有できるのでしょうか。

旅行はメンバーが運転する車に同乗してという形のため、遠出もあと何年でできるかが心配です。その時が来たら近場の温泉につかりながら孫の自慢話に花を咲かせましょうか。それとも宴会に切り替えてザ・タイガースの歌でも歌って盛り上がりましょうか。その時に歌うのもやはり明善応援歌です。



明善「よいかい」の絆

昭和41年卒 古賀啓子

「次の幹事長は、おなごがよかばい！」という鶴の一声で、皆勤賞の私に白羽の矢が立ち、幹事長に選出されたのが昨年の「よいかい」幹事会でのこと。22年前のある日、一本の電話がかかった。ある日、一本の電話がかかった。山田さんね！今は古賀さんやね！あんた長いこと行方不明だったよ！ようやく見つけたわ！明善の同期生が銀座に集まるけん、出てこんね！」…久保聡子さんからの電話だった。弁護士岩原武司さんを中心同期生が集まっていたのだ。青春時代を福岡で過ごし、24歳でお見合い、結婚し上京、吉祥寺へ。1歳と2歳の娘達を連れてニューヨーク、帰国後は文京区、多摩センター。次々と変わる生活、明善のことを思い出さずともなく、こんなに多くの同期生が東京に居ることを知る由もなかった。



昨年4月9日第22回目の「よいかい」、例年通り日本プレスセンター、30名の参加。岩原さんが12年前に亡くなって以来「よいかい」仲間の訃報が入るようになり、今回も青木勉さんと梶原克彦さんを偲ぶ黙祷で始まった。恒例の恩師紅頭一郎先生のアルトサクソス演奏、「ビギン・ザ・ビギン」「ベサメ・ムーチョ」「オブラディ・オブラダ」そして「My Way」。喜寿を迎えられた先生は益々お元気、上達ぶりは素晴らしい！田坂和夫幹事長の挨拶、白石時憲・稲見憲子さんの名司会、締めは別府秀喜さんの音頭で校歌・応援歌の合唱。「よいかい」が、さらに10年、20年と続きますように！！今年場所は変え新橋の新橋亭、来年は久留米と合同で二泊三日伊勢神宮「古希を祝う会」を開催予定。年2回の支部ゴルフ大会、毎月の幹事会にも参加、先輩後輩方との交流も始まった。昨年は久留米の大同窓会、同期生木稲逸郎さんのお店「いちず」での二次会、翌日のプリヂストンカンツリーでの明善ゴルフ大会にも参加。Uターン組の「よいかい」の懐かしい友人達とも再会。人生の後半にこういう楽しみがあるうとは！！「よいかい」仲間達との絆、先輩後輩達との絆！！明善高校に感謝。22年前のあの一本の電話に感謝。ありがとう明善！！

いつまでも青春たい！

昭和42年卒 長岡 健

42年卒の関東同期会は毎年7月第1土曜日に開催、会を重ね昨年で30数回になった。毎年、同期の高山喜一郎君の「赤坂有薫」に30余名が集い、玄海灘、有明海の海の幸に舌鼓を打ち、美味しい酒に酔いしれ、互いの無事を祝いながら懐かしい昔話に花を咲かせている。



昨年7月5日に開催し39名が集うが例年とちよつと違った雰囲気。わが同期の「永遠のロククンローラー」鮎川誠君(まこちゃん)が最愛のシーナさんを年初に亡くしたのだ。有志から「まこちゃんは一倍寂しがり屋けん、いつちよ彼にも是非参加してもらって、同期で元気づければやるや！」という声があり、「まこちゃん」も多忙な予定を割き参加してくれた。「まこちゃん」が表れると誰彼となく「まこちゃん、元気ね！」「どげんしよと？」とか暖かい言葉を投げかけ、「まこちゃん」も「元気ばい！おいもまだまだロククンローラーとして頑張らにや、いつまでも青春たい！」と元気に言葉を交わした。

我々同期は多くの男子はリタイヤ、女子は子育ても終わり、交わす会話が懐かしい昔の話の他には健康の話(特に既往症や服用している薬の話)や孫の話が多くを占めるようになった。しかし今回は「まこちゃん」と会話しその若々しい恰好を見るにつけ、例年とは違い会話の途中でどこかしら若やいだ雰囲気への変化を感じたのは私一人ではなかったように思う。我々42年卒が明善の門をくぐったのは「東京オリンピック」の年、アジアで初めて開催されたオリンピックの開会式、種々の競技それに感動の開会式を胸躍らせTVにかじりつき観たものだった。そして2020年は再び東京でオリンピックが開催される。その時、我々同期も齢72を数えることになるが、「まこちゃん」のいう「いつまでも青春たい！」と言って毎年「赤坂有薫」に集い、全員が元気に2度目の「東京オリンピック」を迎えられることを祈念して止まない。最後に「赤坂有薫」大将の高山喜一郎君、連絡係の鳥越(岡)素子さん、会計担当の原野康義君、相談役の加藤(上田)ムツ子さんに感謝！感謝！

健康で生き生きと暮らせるように

昭和52年卒 雨森博子

福岡県の健康寿命、47都道府県で何位かご存知ですか？なんと男性は40位、女性は44位。福岡は健康でいきいきと生活できる健康寿命が短い。つまり平均寿命までの期間(男性は約9年・女性は約12.5年)が長く、介護など誰かに世話してもらう期間が長いということ。ちなみに東京は男性が33位・女性は41位。(平成22年厚生労働省資料)先日より久留米大学医学部教授 山岸昌一先生の「AGE検定・認定講師養成講座」を受講しています。先生は生活習慣病の専門医として糖尿病と血管合併症の研究から老化の原因物質AGE(エイジーイー)※に着目、様々な医学賞を受賞され、「ためしてガッテン」などテレビ出演は多数、5大新聞で紹介されるなど活躍です。



講座を受けた理由は、福岡に住む80代半ばになる両親のサポートを考える時期になったこと、私は還暦に近づき、まわりに糖尿病の治療や心臓の手術、脳梗塞でリハビリをする方が増えて、老いと健康・美容を意識するようになったからです。「老け顔の人は早死にする可能性が高い」という研究結果から、老化は外見だけでなく、体内の老化と密接な関係があると考えられています。体(血管・臓器・脳・筋肉・骨・皮膚等)はタンパク質できている、糖と結びついてAGE化(糖化)したものが蓄積し、様々な病気の引き金になるそうです。AGEは糖尿病や心筋梗塞・癌・アルツハイマー・骨粗鬆症等の他、シワや薄毛の原因の一つともいわれています。

講座ではAGEを抑える方法として、血糖値のあり方を考えた食事、食後の軽い運動が大切。AGEを多く含んだ物を頻りに食べない。電子レンジの「チン」は控えめに。抗AGE効果のある食材を検討するなど。薬は逆から読むとリスクとも教えていただきました。誰もが最後まで健康で生き生きと暮らせるようにと願います。腕を乗せて痛みを伴うことなく約15秒でできるAGE測定(無料)を行っています。お役にたてることになりましたら「連絡下さい」。

※AGEはAGEs (Advanced Glycation End Products) の略で、終末糖化産物

Airbnb、いわゆる民泊

昭和61年卒 尋木浩司

明善卒業後、30年が経過した。明善関東支部の集まりやフェイスブック等で情報交換をしていると、同期生にいろいろな動きがあつて非常に興味深い。大学卒業後、服部セイコー、ぴあを経てKADOKAWAに転職さらに早期退職し、複数の投資用建物を取得して不動産事業主となった友人がいる。彼は宅建業の免許を取得し、自らの手で取得した投資用建物のリノベーションを行い、不動産の新規事業の研究にも食欲に取り組んでいる。

ところで、近時の不動産事業の目玉は、やはり、「Airbnb」いわゆる「民泊」である。これは、ソーシャルメディアの発達により可能になった物、サービス等の交換・共有により成り立つ「シェアリングエコノミー」という経済の仕組みの発達に伴って考え出されたビジネススキームの一種であり、外国人観光客の急増もあり個人宅や集合住宅の空室を宿泊施設化するビジネスとして注目を集めている。旅館業法上の規制があるため、その適用が除外される特区に限ってこのビジネスは合法的な状況であるが、不動産業者にとっては通常の不動産賃貸業よりも高利回りを期待でき、前述の「彼」も既に「民泊」を開始しているようである。

IT技術の進歩により、旧態依然としたアナログビジネスに胡座をかいている事業者は一気に淘汰される。デジタルカメラ技術の急成長でコダック社は一瞬にして地に墮ちた。Google等の世界的IT企業が新たな視点で自動運転システムの乗用車を開発している。現在のエンジン自動車に取って代わるのも決して遠くない未来であろう。不動産業界においても、物件仲介時の重要事項説明、契約締結をITで行う試験が行われている。不動産所有者が自らの手でインターネットを通じて買主、借主を募集し、説明・契約専門のIT業者が重要事項説明等を行い、案内専門業者が客を物件に案内するという分業が実現すれば、現在の不動産仲介業は消滅する運命にある。今日の先鋭的技術革新社会において、野心的な多様な同門、同期が存在しているというのは、本当に心強いものである。



関東支部総会幹事を担って

昭和62年卒 久保田 葉

あつという間に総会から8ヶ月が経ちましたが、ご意見、ご指導頂いた同窓会役員のみならず、総会に参加し盛り上げて頂いた全てのみならず、本当にありがとうございました。そして、幹事学年だった62卒同期のみならず、本当にお疲れ様でした。



ちょうど今もNHK「ヒストリア」で東芝の創業者『からくり儀右衛門』(久留米出身)を見ながら、何かと久留米の話題に事欠かない一年だったなあと思ひ返しビール片手にPCと向き合っています。

思い起こせば2014年秋、47歳と脂ののった年齢で集まった14人でスタートした62卒幹事団でした。およそ29年ぶりの再会ということもあり卒業アルバム片手に手探りで愉快な会話が、次第に大きな広がりを見せ半年で29人までパワーアップして5月24日当日を迎えました。運良くプロのプロデューサーである津留くん、プロの司会の堺さんを筆頭に各分野の役者が揃っており、仕事の合間に打合せを積み重ねました。どこまでこだわられるのか、予算や会場事情など考慮しながらも、当日はテレビ番組用のセットを揃えた本格的なクイズで盛り上がり、更にはサプライズで久留米からゆるキャラ「くるっば」も駆けつけてくれたり、ラストを飾る毎年恒例の校歌、白杯の歌まで、例年に劣らない楽しい総会になったのではないかと思います。細かい手落ちも諸々ありましたが、ご愛嬌ということでお許しください。

今回、同窓会幹事を勤めさせて頂いたことで、改めて明善高校OBのみならず縦横の繋がりと、都で力強く根を張り広がっているエネルギーを実感できました。また久々再会した同期のみならずそれぞれいろんな分野で根を張り、都の荒波にもまれてたくましくなっているなあ嬉し気分になりました。これから63卒の後輩にバトンタッチしますが、久留米から初めて上京してくるフレッシュな学生諸君まで楽しく参加でき、何かあったらここで相談できるような関東支部になるように微力ながら引き続き参加して行きたいと思ひます。

平成28年度総会幹事を務めさせていただきます!

昭和63年卒 菅谷 聡

明善高校卒業と同時に、父の転勤により実家が小郡市から愛知県豊橋市に引越し、私自身は福岡から遠く離れた信州大学に進学したこともあり、明善で一緒に過ごした仲間との交流は卒業以来20年以上途絶えていました。4年前フェイスブックで明善同級生と偶然出会い、東京での明善同級会に初参加、二十数年ぶりの仲間の再会はとても楽しく、その日は終電を逃し新橋のサウナで夜を明かしました(笑)。



さらに明善野球部OB会(明球会) 関東支部の集まりにも参加するようになり、昨年の新年会で1学年先輩のキャプテン久保田さん(前年幹事)から関東支部総会の話をお聞きしました。「来年は貴谷の代が幹事学年だから、同級生集めて今年(平成27年)の総会に参加しよう」との、キャプテンからの言葉に28年前と同じように、反射的に「はい!」と。明善野球部の上下関係は28年を経ても不変なのです。(笑)。

こんな経緯で、昨年の総会に63年卒12人で参加し全員が初参加で戸惑いながらも久しぶりにお会いする先輩方との交流を楽しんだ同級生もいました。何よりギョーカイ人もいらっしやる62年卒の先輩方のプロの仕切りを拝見し、「僕たちに出来るかな」との不安もよぎりました。その後3回の同級会を重ね、63年卒生なりの「思い」を今年の総会・懇親会に盛り込もうと考えています。同級生同士のヨコのつながりだけでなく、タテのつながり(先輩・後輩のつながり)を深めるための会話交流を促し、同窓会の発展につなげたいのです。これから準備が本格化しますが、明善2年のときの文化祭準備に似た一致団結した充実感が味わえるよう、そして何より先輩・後輩の皆さんに楽しい時間を過ごしていただけるよう精一杯頑張ります。是非、多くの同窓生のみならずにお集まりいただけますようお願い申し上げます。

濱本澄江「ペーパースクリーン版画展『見えぬものとの対話』Muse 2016」

昭和51年卒 濱本(青柳) 澄江さんの版画展が開催されます。福岡で活動中ですが3年ぶり2回目の東京での個展開催です。奮ってご来場ください。

5月16日(月)〜21日(土) AM11:00〜PM7:00 (最終日PM5:00まで) シロタ画廊 東京都中央区銀座7-10-8

03(3572) 7971

秋明戦 念願の2勝目

昭和51年卒 内田直人

1915年大阪豊中球場で第1回全国中等学校優勝野球大会が開催され昨年は10年目の記念の年だった。第1回大会にも出場し甲子園19回の出場を誇る秋田高校野球部との8回目の対抗戦を11月22日東京大学野球場で開催した。球場には関東同窓会約20名の男女先輩方が応援に駆けつけ、明善野球部は奮起大量得点16対8の大差で念願の2勝目を上げた。今年のチームの特徴は大いに若返り、別府監督から久保田新監督(62年)へバトンタッチ、出場選手も20才台の小柳、船津、田尻君が出場し攻守で大活躍した。久保田新監督と小柳君は目の覚める本塁打を含めサイクルヒット達成寸前まで、初回4点先制の後も4回まで毎回得点、今年の打撃のチームを象徴した。投手陣は先発友池(51年)の力投、2回に得点され早めの降板するも、その後小森投手(H2年)の小技を混ぜたロングリリーフで秋田の強力打線を一桁得点に抑え込み勝利に見事貢献した。5年ぶりの勝利で美味しく祝杯をあげたことは言うまでもない。

高校野球100年を記念し、第1回大会出場10校OBが12月19日甲子園球場に集結し当時の試合を再現した。秋明戦は甲子園出場を前にした秋田高校チームの壮行試合でもあった。また久留米でも翌週に第1回大会出場の前で久留米商業の壮行試合を開催し、こちらも明善OBチームが勝利したとのことであった。記念すべき高校野球100年目の明善野球部にとって楽しい出来事であった。ちなみに中学明善は第2回大会、第4回大会(ただし米騒動で中止となった)の全国大会に出場した。



第12回、第13回 関東支部ゴルフ大会開催される

ゴルフ委員長 昭和43年卒 山下政晴

第12回大会は、2015年4月11日(土)に茨城県の霞南ゴルフ倶楽部で開催。「明善ゴルフは雨!」のジンクス通り朝から雨、午後には願い叶い雨も止んだ。参加者はS33年卒からH22年卒まで27名、うち女性が2名。初参加者が4名(西依章郎さんH22年卒、吉武修一さんH22年卒、梶原勝さんH22年卒、光安巧磨さんH22卒) youngestで唯一の学生参加者。雨の為(?)成績は芳しくなく、本来の優勝はネット77で梶原さんでしたが初参加の為優勝の権利なく、諫山俊信さん(S33年)が繰り上げ優勝、梶原さんが準優勝、3位は西依さん。

第13回大会は、2015年10月31日(土) 大熱海国際ゴルフ倶楽部熱海コースで開催。参加者はS33年卒からH13年卒までの22名、内女性は2名で、平均年齢は約63歳と高齢化が進んでいる。優勝はS55年卒の本田匡史さん(グロス80、HC12、ネット68)、準優勝はS44年卒の瀬戸渡さん(ネット70)、3位はS43年卒の山口光夫さん(ネット71)。初参加者はS44年卒の江頭伸一さん、S48年卒の津福一成さん。

今回は2016年4月16日(土)、紫カントリークラブ・あやめコース(千葉県野田市)。参加者が高齢化、若手の参加者を切に希望する。うまい、下手は関係ありません。老若男女、十人十色の同窓生が和気藹々と楽しく一日を過ごし、親睦を深めることが目的です、奮ってご参加ください。常連メンバー原寛さん(S55年)がロンドンに、又小山田剛さん(S60年)がロサンゼルスに赴任された。武運長久を祈ります。

編集後記

関東支部は昭和54年に発足し第1回総会には約200名が参集した。今年に記念すべき30回を迎え、同窓生の絆をめぐし支部組織と活動を創設した大先輩方の意思と期待を引き継いできたと思う。同級生の絆はもちろん、年代を超えた同窓生の繋がりを築き、故郷愛を確かめあっている。は上京した若人の激励などを通して地元での発展や同窓生の活躍を応援することをさらに継続したい。これからは明善同窓会関東支部の特徴と魅力ある活動ができるように同窓生の皆さんのご協力をお願いしたい。今年30回記念に加えて東京水天宮の改築、明善野球部甲子園出場100年目など記念すべき年でもあり楽しい年になることを期待したい。